

啄木のふるさと『もりおかの短歌』

第八回 年間最優秀賞 決定!

★ 年間最優秀賞 (二首)

★ 年間優秀賞 (二首)

★ 年間奨励賞 (二首)

啄木のふるさと『もりおかの短歌』事業は、啄木が生まれ育った盛岡を訪れる観光客や市民による啄木短歌の特徴である『三行書き』の短歌づくりを通じて『短歌のまち もりおか』を推進することを目的に平成二十年より実施している事業です。四つの期間(夏の部・秋の部・冬の部・春の部)に分けて募集し、一年間に応募のあった八三八首の中から第八回目となる年間優秀作品が決定いたしました。

いつの日も凜と聳ゆる岩手山

めぐげずに生きよと

鼓舞する如く

青森県青森市 鈴木 操

【受賞者からのコメント】

このたびは思いがけず賞を頂くことが出来、大変光栄に思うと同時に、今までの人生において一番苦しかった頃の事を、素直に表現して受賞ですので、殊の外嬉しい思いをしております。選を担当された先生方やスタッフの皆さまにも深くお礼申し上げます。

【審査員講評】

●盛岡に帰る度にいつも凜と聳えている岩手山めぐげずに生きよと励ましをいただいているという。まさに「ふるさと」の山はありがたきかな」を身をもって実感している歌です。作者の気持ちがよく表れております。(八重嶋) ●岩手山はいつ見ても人を寄せ付けない威厳を保っているかに見えるが、八幡平の裏に回るとなだらかな尾根が広がる。無理をして叱る父親のように。(山本玲子)

●初句「いつの日も」は作者が盛岡で暮らしていた過去と訪れた現在の両方を指しているようです。季節や天候に動じることなく凜然と聳える岩手山。背中を押され励まされた作者の思いが行間にも滲み出ます。(松田) ●啄木の「ふるさと」の山に向ひて／言ふことなし／ふるさと山はありがたきかな」に相通ずるものがある。岩手山から人は様々の影響を受けている。「めぐげずに生きよと鼓舞する如く」が効いている。(山本豊)

風鈴が迎えてくれし

啄木の青春刻む

盛岡市 河野康夫

【受賞者からのコメント】

この度は、素晴らしい賞を頂きありがとうございます。涼しげな音色で、心地よい南部鉄器による風鈴の音が響く盛岡の街には、啄木新婚の家、啄木望郷の丘など啄木の足跡が数多く残っています。訪れた人達が文学、文芸の街としての盛岡と感じて頂ければ幸いです。

【審査員講評】

●暑い夏の日、盛岡駅に降り立つと、たくさん風鈴の音が迎えてくれた。ああ、この町は、啄木の青春を謳歌した街であ

啄木がこころ吸われし青空を

探してのぼる

城あとの坂 滝沢市 澤内イッ

【受賞者からのコメント】

思いがけない入賞でした。心より感謝申し上げます。啄木の「空に吸はれし十五の心」の歌のように、盛岡城跡公園の散策など、文学的風情にふれる機会をこれからも少しずつ増やしていければ幸いです。

【審査員講評】

●啄木の「空に吸はれし十五の心」の空を探し不來方城跡の坂を上っているという。現在は盛岡城跡公園とよびますが、二の丸に、この歌碑があります。「青空を探

つたなあ、と作者が感じたのでしよう。爽やかな風鈴の音に、啄木の青春が偲ばれます。(八重嶋)

●啄木が焦がれて止まぬふるさとの風景には南部鉄器の乾いた風鈴の音が似つかわしい。時を超えて啄木の息遣いが聞こえてくる。(山本玲子)

●「くれし」と過去形で詠われています。盛岡に降り立ち、まず迎えてくれたのは風鈴の音だった、作者にそんな過去の記憶があったのでしょうか。公園や歌碑など啄木の青春時代を髣髴とさせる盛岡の街です。(松田)

●夏の盛岡駅のホームにはたくさん風鈴が飾られる。その音色は、涼しさよりも盛岡に来た、という感慨を強く抱かせる。風鈴と啄木と盛岡を結びつけることにより、歌が郷土色豊かなものとなっている。(山本豊)

してのぼる」に詩の趣がありよと思えます。(八重嶋)

●「空に吸われし十五の心」とは啄木がのちに上京し詠んだ歌であり、話題に置き去りにしてきた歌であった。今、話題のポケモンGOのように探して当てるのも悪くない。(山本玲子)

●「不來方のお城の草に寝ころびて空に吸はれし十五の心」この歌を思いながら城址公園の坂道をのぼる作者が見てきたま。心を吸われそうなる青空を探して来たことには触れず成功しました。(松田)

●「不來方のお城の草に寝ころびて／空に吸はれし十五の心」と詠った啄木に対する作者の深い思いが素直に表現されている。「青空をさがしてのぼる城あとの坂」という表現が内容に深みを加えた。(山本豊)

強力の大砲太鼓

鳴り響き

青空高し盛岡の山車 盛岡市 三澤信裕

【受賞者からのコメント】

思いがけない受賞、ありがとうございます。盛岡の山車は大砲太鼓で音が腹に響き市民の心意気の良さを感じます。市民の可能性は高い青空の如く無限。私も今後の余生、持病に負けず未熟ながらも今後ながら短歌を創り続けていきたいと思っております。

【審査員講評】

●青年の力強い太砲に鳴り響く太鼓、秋の青空も高く、堂々と行く盛岡の山車という歌。子供たちの小太鼓や笛、鉦

の音も響き、にぎやかに行くのでしようが、太砲太鼓に焦点を絞ったのがよかったです。(八重嶋)

●盛岡の山車が通り過ぎたら足早に秋が訪れる。よく晴れた日に陽射しをいっぱい浴びながらしばしば太鼓の響きに耳を傾けていた。(山本玲子)

●盛岡八幡宮例大祭の奉納山車を「強力の大砲太鼓」という詠い出しで誇らかに表現しました。太鼓を振り落とすように叩く太鼓の音と共に、山車の英雄豪傑の人影のキリリとした表情も思い出されます。(松田)

●九月の八幡宮の秋祭りの様子が生き生きと伝わってくる。太鼓の音だけでなげ声までもが聞こえてくるようだ。「青空高し」と言いつて、歌に爽やかさが加わった。(山本豊)

事を成す力は日々の労と

石割桜

吾に語りし 神奈川県横浜 牛島芳一

【受賞者からのコメント】

帰省の度に幾星霜を経た『石割桜』の前に佇みます。厳しい風雪に耐え抜いて来たたくましく、それでいて柔らかな幹。空に広がる枝、満開の花。柔らかなさをもつて事を成す、『石割桜の心』が、ふと、私に語りかけて来たのです。

【審査員講評】

●事を成し遂げていく力は日々の努力、苦勞があればこそであると石割桜が、われに語っている。という歌。巨岩を

割り苦勞難難して育った石割桜、毎年見事な花を咲かせているのは、本当に涙ぐましいばかりです。(八重嶋)

●例えば「ローマ」一日にして成らず」のように説教がましい言葉よりも、石割桜の方が実感を込めて我々に語りかけていることは確かである。(山本玲子)

●石割桜を擬人化し対話したような表現の中に作者のお人柄が感じられます。「事を成す力は日々の労」も、人生経験と深い思慮から得られたご自身の言葉なのでしよう。めつたり弱くなり花数の乏しくなった石割桜です。(松田)

●「事を成す力は日々の労」とらえた作者には、ものごとを深く見つめる力が常日頃から備わっているからこそできる表現である。(山本豊)